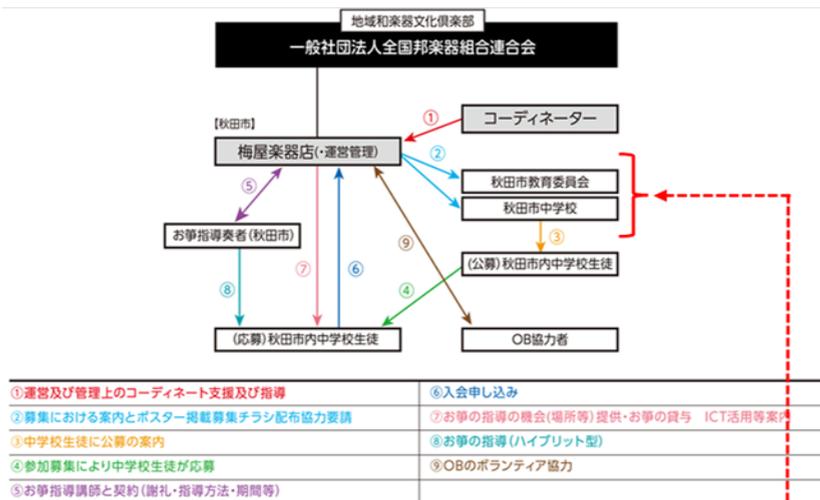


成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	「秋田市日本伝統音楽箏曲クラブチーム おうちで琴倶楽部」		
所在地	秋田県秋田市	設立年	2021年
運営主体	全国邦楽器組合連合会(有限会社 梅屋)		
事業目標	<p>二年目にあたる本年度も中学校における教職員の働き改革における部活動移行の課題と、少子化により中学校生部活動の縮小や廃止などで継続となる中学生が増えている中で秋田市の邦楽器文化の向上、演奏技能研鑽の環境整備を行うための活動として、秋田市に【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム】の組織体制を創設。ハイブリッド型レッスン(オンラインと対面の併用)を活用することで、活動エリアを広くし生徒の受け入れを秋田市に限定せず可能とした。生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことと教職員の働き方改革というテーマを目標として、地域部活動に移行させるために取組むモデル、生徒の生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指すことを実施していく。</p>		
きっかけ	<p>趣味の多様化の普及により、「和楽器」の演奏奏者、愛好家など少なくなり手軽に「和楽器」を習う機会や鑑賞する機会が少なくなっており、日本伝統芸術「和楽器」の継承が危ぶまれております。そこでこの度の事業を通じて、中学生が日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会(注1)が「地域和楽器文化倶楽部」を創設して、秋田に持続可能な和楽器の文化芸術活動を支援することで【秋田市 日本伝統音楽「箏(そうきょく)クラブチーム】の組織体制を立ち上げました。</p> <p>(注1) 一般社団法人全国邦楽器組合連合会は、全国の邦楽器にかかわる製造業、卸業、小売業で構成する全国20組合を設置。「邦楽器関連企業及び邦楽の健全たる発展を支援し、社会的地位向上に貢献し、豊かな社会作りに寄与することを目的としております」全国ネットワークをいかし 演奏家と取り組んでおります。</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: right;">和楽器の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ①和楽器作り(突きつめる) ②和楽器演奏(学びとる) ③和楽器体験(感じる) ④多様性(地域・世代) ⑤和文化(想い・感謝) </div>		

団体・組織等の連携



新たに秋田市校長会・秋田県音楽教育研究会との連携も出来ました

【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム」を創設。「和楽器」の文化芸術活動の起点とし邦楽器に触れ、生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことを目標として地域移行させるために取組むモデルの実証事業を発展的な取組む(生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指す)ことを説明出来ました。

1. 秋田市教育委員会、秋田県立教育委員会、秋田中学校校長会(校長会に和楽器地、秋田県音楽教育研究会(秋田中学校音楽先生の勉強セミナーでの講師)

活動場所

梅屋楽器秋田店 2F「梅屋スタジオ」と中学生の自宅によるハイブリット型併用指導

活動概要

児童・生徒が、生涯を通じて日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会が、持続可能な和楽器の文化芸術活動の課題を解決するために「地域和楽器文化倶楽部」を創設しました。その一つが秋田市日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム」です。秋田市日本伝統音楽「箏曲クラブチーム」は和楽器の「箏」を主に児童・生徒を対象として創設した倶楽部です。和楽器の魅力に触れながら『自己表現・協調性・達成感』を学び、生徒さんの健全な育成の一助となることを目的とし、この事業を通して日本伝統音楽及び「和楽器」への興味・理解を深めてもらう機会になることを目指しております。
 レッスン方式は対面とオンラインレッスンを併用したハイブリッド型レッスンを実施。秋田県初の和楽器を活用したリモート校外型クラブチームです。

○本事業による成果

【学校現場での変化について】

昨年引き続き中学校部活動と地域部活動がはっきりと区別する事ができた。中学校内で「和楽器」地域部活動の案内していくことで、地域部活動が認知されると学校教職員の就業時間は明らかに減ると思う。秋田県内の各小・中学校に対して校長先生、音楽の先生、中学校生徒に対して和楽器の音色を楽しみながら、自己表現、協調性、クリエイティブ力、自己肯定感、達成感、忍耐力なども学んでいくことが期待できると思う。次年度より有料化となるが継続希望の声は多く寄せられた。

【生徒の声】

アンケートの実施は3月下旬に予定している。生徒に対しヒヤリングは数回したが、オンラインでの指導方法、時間の活用、和楽器演奏などについて、スマホやPCなど生徒が普段から使用しているツールでの指導に対し我々が思う不安は生徒が気にしていない事も分かった。楽しみながら、リモートならではの一人一人の演奏・質問など中には対面より集中できるとの意見がありました。対面指導や友達と一緒にオンラインで練習する機会ができればとの意見もありました。他に各個人の受講に使用するアプリの設定が最初上手いことか相談がありましたが、2年間のトライ&エラーで蓄積した経験値は今後も更に増え、リモートレッスンの可能性を大きくする事と思います。在宅でレッスンという取り組みで、今後もどんな生徒でも和楽器に触れる機会を大きくしたい。

【既存の部活動に変わり得るか】

部活動としてそのクラブがどんな理念を持ち進行するのが大切だと思う。弊社での部活動とは、「興味・関心を持って、集団や個人として目標を持ち切磋琢磨し、技能や記録に挑戦していく中で、人間関係の大切さや楽しさ、喜びを学ぶ」活動であると定義し今後も継続する。生徒一人ひとりの性格等の違いから、技術習得までに個人差が生まれることは当然であり、それに寄り添っていく為の仕組みに講習開始前後の時間を活用したお話しタイムを設けた。生徒一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添いながら指導していくことが「和楽器」地域部活動として大切であり必要なスキルであると感じた。自宅で行うことで、近くに寄り添えない事。一つ一つの声掛けが大切だと改めて感じた。また活動時間の短縮は効果が大きく楽器の準備・片付けの時間は省かれ、オンラインではあるが他の学校の生徒との交流も生まれる。今回外部箏指導講師として参加いただいた小野玲子さんは、音楽療法士の資格をお持ちの他、支援学校での指導の経験も豊富で、そのスキルを生かした良い結果となった。これらの点から既存の部活動に変わり得ることは可能だと思う。小野さんには引き続き指導をお願いする予定。今後も蓄積した経験値を生かし本事業を発展させたい。

○児童・生徒への指導に関する工夫

【生徒への指導】

演奏指導については予定カリキュラム通り進める事ができた。もちろん対面レッスンより進行は進まないが講師と生徒の対話や個々の課題を乗り越える生徒の成長の伴走をしてきたと思う。創造力・読解力が育まれている事を実感できた。生徒の成長の一助となる事が弊社の部活動に対する理解・理念である。次年度から中間・最終発表会を本年度同様にリアル開催することにした。

【演奏以外の知識】

本題の演奏・親しむ事が主になったが、予定していたカリキュラムには、楽器の製作現場とオンラインで繋ぎより理解を深める時間も組み込まれていた。楽器の知識や職人と直接お話することで更に関心が高まり良いレクリエーションとなった

【講師の研修】

昨年引き続きZOOMアプリの研修を行った、演奏以外の機械操作やZOOMの特性、生徒に通信環境の説明がある程度出来るようにする狙いだが、各家庭の状況にトライ&エラーを続けていく事が大切という結果になった。

○運営上の工夫

【指導者の募集・研修について】

今後和楽器指導講師の増員を検討する、将来的に生徒が20名を超える傾向がある場合、芸歴・活動歴を参考に募集する。ハイブリット型のレッスンなので慣れが必要、そのためレッスンへの同席による研修・実習を実施して行きます。指導とZOOMアプリの研修を実施する。

【クラブ活動時間について】

本来の部活動時間を意識して取り組んだ、今回実施して気づいたのは各学校の時間数が違う事と学校から自宅までの帰宅に掛る時間がまちまちな事。この事を加味すると16:30スタートと部活開始時間としては遅めの設定となった。次年度からは4クラス編成となり個々の帰宅時間のずれにも対応する。

【生徒募集について】

本年度も各学校へ生徒一名ずつ案内チラシを配布、その他学校内掲示ポスターでクラブ案内をした。その他地元限定のSNS発信・黙食時間を利用してのPR用CDの放送・大手地元企業の休憩室など様々に声掛けとPR活動を行った。本年度はその時点より問い合わせが入る様になった。事業2年目となり徐々に周知されたと思う。本年度は秋田市教育委員会をはじめ秋田県教育委員会とも情報交換ができた。

【コーディネーターの仕事】

昨年に続き地域音楽コーディネーターにアドバイスをいただいた。秋田市教育委員会や秋田県教育委員会に訪問、情報交換や次年度へ向けて協議ができた。同席していただき地元の職員OBの方への説明や様々な分野において学ぶ事ができた。

【用具(楽器等)調達、運搬、保管】

運営が楽器店というここもあり用具の貸与・道具の整備・保管に関しては問題がなかった。

【ICT活用】

リモートレッスンをはじめ募集の為のSNS発信・SNS広告、また他の団体グループとの交流を可能にした

【関係者全員にとって無理のない仕組みを構築について】

本年度は学校での募集活動になり、募集活動自体が現場の負担にならないよう最大限考慮した。学校内での案内だが学校では案内のみとする事で、学校への問い合わせ等がいかないように責任の線引き成文化をした。

指導者に関して本事業に携わる時間を明確にし予定時間内での活動を重視した。

○継続的な運営に関する課題・展望

【自治体・地域との連携】

地元の県教育庁・教育委員会との連携なくしては、事業を推進できない。相談・報告・協力依頼ができる連携を昨年同様につくる事ができた。生徒募集に関しては引き続きSNSを中心に発信していく。

【会費への理解】

会費については次年度より有料化となる。本年度が無料であったため継続する生徒と終了する生徒に分かれるが継続希望者が多かった。現場の教職員への働き方改革を推進する事業であり地域移行の一助となっていると思われる。今後本事業を更に発展させ事業継続化にスポンサー企業・クラウドファンディングなどの併用を検討している。

【芸術団体との連携】

地元文化団体(秋田県三曲連盟)から後援をいただいている

【継続に掛る資金】

運営資金調達の為、クラブの取り組みについて地元企業・県外企業に紹介、企業・クラブ共に良い関係性を築ける事を目指す。その為には外部への発信作業が最重要になる。

【保険・安全確保】

生徒・講師の本事業に関わっている時間に対し保険(一般保険会社)に加入。スタジオに防犯カメラの設備とガイドブックによる災害発生マニュアルを作成、その他感染予防対策として消毒液・空気清浄機を設置した。万が一の緊急連絡フローによる管理責任を明確にしている。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

【事業計画】

①募集計画

昨年同様にエリアを秋田市内中学校から秋田県中学校を拡大する。世代の拡大として小学校4年生～の生徒児童へ募集拡大し、「和楽器」の魅力を発信します。小・中学生に周知できる自治体との仕組みづくりやICTを活用しハイブリッド型レッスンを実施します。リモートの強みを生かし全県の小学生(4・5・6年生)と中学生(1・2年生)にSNSを活用して募集を拡大します。

②4コース

小学校コース(初級・中級)中学生(初級・中級)指導要領の確認、カリキュラム構成

③活動経費と地域との連携

本事業をPRします。スポンサー企業・クラウドファンディングを意識したPR活動をいたします。積極的に発信して「和楽器」の素晴らしさを地域の企業、SNSなどにアピールします、協賛いただけるような仕組みづくり。またイベントなどを開催し地域活動にも参加します。

④教育機関との連携

文化庁と取組活動等について情報共有化と地域自治体との関係を強化します。

地元県教育委員会、市教育委員会、校長会、各小・中学校との連携により情報共有化を推進し、改めて本事業の主旨であるクラブ活動の校外化の意味(働き方改革)を周知します。

日本の伝統音楽「和楽器」を楽しむ地域活動環境づくりを推進します。クラブは学校・学年を超えた風土づくりと他の学生団体との交流を実施しあわせて小・中学校音楽教員を対象に、「最近の和楽器実情」をテーマにセミナーなどを実施できる機会をつくり、和楽器の魅力を伝えます。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生11名 中学生2名
	学校名	
	募集方法	チラシ・ポスター製作、各小・中学校へ配布、掲示。校長会にて説明。 Facebook、 HP掲載紹介・紹介。地元企業・プレスリリース
指導者	人数等	1
	募集方法	芸術団体に所属の会員に対し募集
参加者の移動手段		対面レッスンは保護者による送迎、オンラインは自宅で受講
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 1回/2,300円(1時間30分) コーディネーター6ヶ月/100,000円 楽器借用料1面/2,000円 教材費1名/8,000円 アプリ使用料1年/22,110円
	その他	
活動財源	会費	本年度は無し
	その他	一部自己負担
スケジュール	基本活動	スケジュール……2回/週 ・8回/月 ・80回/年間 【小学生コース40回】【中学生コース40回】
	年間	【指導時間】:90分/回 16:30~18:00(予定)2022年5月~2023年3月
保険加入等		傷害保険 講師1名・クラブ生徒3名

【活動の様子（写真添付）】



